

## \* 労働市場速報（平成26年10月分）について（解説メモ）

### 1. 有効求人倍率の動向等 【表2a】

○ 有効求人倍率（季調値）は0.85倍で、前月と同じ。

直近の状況では、平成21年8～12月が0.37倍で底。

（神奈川の過去最低は平成11年4月、5月、6月の0.33倍）

- ・ 有効求人数（季調値）は、95,723人（前月比0.4%減）
- ・ 有効求職者数（季調値）は、112,256人（前月比1.2%減）

\* 有効求人数（原数値）では前年同月比で54ヶ月連続して増加している。

\* 有効求職者数（原数値）では前年同月比で53ヶ月連続して減少している。

### 2. 新規求人倍率の動向等 【表2b】

○ 新規求人倍率（季調値）は1.35倍となり、前月から0.07ポイント上昇。

前年同月 1.25倍（0.10ポイント上昇）

- ・ 新規求人数（季調値）は、33,353人（前月比0.8%増）

\* 新規求人数（原数値）では、37,312人で前年同月比51ヶ月連続増加している。

- ・ 主要産業別新規求人数（原数値～前年比）は、建設業（9.1%増）、医療・福祉（4.1%増）、サービス業（16.7%増）で増加した。

製造業（16.1%減）、情報通信業（11.2%減）、運輸業・郵便業（14.4%減）、卸売業・小売業（5.8%減）、専門・技術サービス業（16.2%減）、宿泊業・飲食サービス業（7.6%減）、は減少した。

\* サービス業（ビルメンテナンス、警備、派遣等）については二桁の増加となり15ヶ月連続増加。

全産業では前年同月比2.1%の増加であった。【表4】

- ・ 新規求職者数（季調値）は、24,715人（前月比4.3%減）【表2b】

### 3. 常用新規求職者の態様別動向等 【表5】

○ パートタイムを除く常用新規求職者（原数値）を態様別に見ると、離職者で前年同月比減少し、無業者、在職者は増加した。

- ・ 離職者は前年同月比14.7%減少　うち定年は同15.9%減。

事業主都合離職者は同26.6%減（18ヶ月連続減少）

自己都合離職者は同6.4%減少。

- ・ 無業者は同0.8%増加。　・ 在職者は同1.0%増加。

#### 4. 雇用保険受給者の動向 【表6】

○ 雇用保険受給者の動向については、10月の受給者実人員は30,866人で、前年同月比12.0%減少した。（17ヶ月連続減少）

\* ピーク時：平成21年7月＝61,933人（6月：60,279人・8月：61,794人）

#### 5. 就職件数の動向 【表3】

○ 就職件数は6,291人で前年同月比8.1%の減少となった。

うち、正社員 2,701人（前年同月比 8.0%減）

非正社員 3,590人（前年同月比 8.1%減）

#### （雇用情勢の概況）

10月の有効求人倍率（季調値）は0.85倍で前月と同じ。

求人・求職の動きは、新規求人数（原数値）は、前年同月比2.1%増加し、新規求職者（原数値）については、同6.4%減少した。

県内の景気は、基調的には緩やかに回復しているものの、生産面を中心に弱めの動きも見られる。雇用情勢については、一部に弱さが残るものの、持ち直しに向けた動きが広がっている。

新規（有効）求職者数は前年同月比で減少傾向が続いている。有効求職者数（原数値）では前年同月比7.9%の減少で53ヶ月連続減少となった。離職者は同14.7%減少し、離職者のうち事業主都合離職者では、同26.6%の減少で18ヶ月連続減少した。雇用保険では、受給資格決定件数が同15.3%の減少で15ヶ月連続、受給者実人員についても同12.0%と17ヶ月連続して減少した。

被保険者数は増加傾向で推移し同2.2%の増加（6ヶ月連続で200万人台）となっている。

新規求人数（原数値）は前年同月比2.1%の増加で51ヶ月連続の増加となっている。引続き建設業で前年同月比増加が見られ、情報通信機械器具製造業では同24.0%増、輸送用機械器具製造業で同19.6%増（12ヶ月連続の増加）、労働者派遣業で17.2%増となっている。

一方、一部の産業で前年同月に大量求人を受けた反動減も見られた。

有効求人数（原数値）は前年同月比6.1%の増加となった。

今後については、消費増税の影響が思った以上に長引いているという報道もあり、持ち直しの動きがある雇用情勢について引き続き注視する必要がある。